

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>理念に基づく運営</p>			
<p>1. 理念と共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>グループホームの役割や、認知症介護についての知識を共有した上で、常勤職員（管理者・ホーム長含む）で話し合い「ホームの基本理念」を作成している。</p>	<p>グループホームの中だけで暮らしが完結してしまうことのないよう、グループホームの外（地域）のことを全員が意識できるよう、促しや勉強がもう少し必要だと感じている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員は自分たちで意見を出し合い作り上げた「基本理念」に対して責任感と誇りを持っており、実践に向けて取り組んでいる。</p>	<p>理念の実践に向けての取り組み方がホーム全体として取り組んでいる部分と、常勤職員主導になっている部分とがあるため、非常勤職員に対しての理念の共有をより深めていきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの行事に町内会長や民生委員などを招いたり、地域で行なわれる行事等に参加させていただくことで、直接雰囲気に触れてもらう機会を作っている。</p>	<p>事業所のことを理解してもらうことは重要だが、それだけでなく、「認知症の方が地域で暮らし続けていくために」必要なことや、グループホームがそのためにどのような意義を持ちどのような役割を果たすのかなど、もっと深く認知症ケアについて広める</p>
、			
4	<p>隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>行事などを通して顔見知りになった方々や、ホームの前に暮らされている方々とは挨拶したり、散歩などの際に声をかけていただくこともあるが、ホームに立ち寄っていただく機会は今のところ行事の際が主となっている。</p>	<p>グループホームが特殊な空間ではなく、「暮らしの場」としての1つであるということを知っていただけるよう広め方を考えている。</p>
5	<p>地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>家族会の発足以来、少しずつだが地域との繋がりも増えてきている。餅つきを協力をいただいで行なったり、近くの老人センターの行事等に参加させていただいている。</p>	<p>『地域の一員』というよりは、まだ『お客さん』という感じは拭い去れない。今ある交流を深めていくため、回数や頻度を見直すことも必要だが、職員間で地域との交流の意義や必要性の理解をもう少し深めていく必要性も感じている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>認知症に対する支援の方法や認知症についての知識を広めるために、『認知症サポーター100万人キャラバン』のキャラバンメイト役を担っている。</p>	<p>同法人内に訪問介護員の養成校があるため、その機能も活用して広めていきたいと考えている。またできるだけ多くの職員についてもそのような機会と能力を身に付けることができるよう考えたい。</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>過去の自己評価・第三者評価の結果を中心に改善に取り組んでいる。</p>	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>8月に運営推進会議を開催したが、ホーム長・管理者交代以後、初めての参加だったため、標記のような内容までには至らなかった。</p>	<p>運営推進会議の意義や目的を、ホーム長・管理者とともに理解することが大切だが、構成メンバーへ伝える必要もあると感じた。</p>
9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>申請や届出等、各種手続きの際に話をさせていただき、市内事業所で組織する連絡会にも参加いただいているため、その場で意見交換や質問等する機会を設けている。</p>	
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者ご家族側の興味・関心が強いこともあり、家族会中心で『成年後見制度』についての勉強会を開催した。現時点で何名かは実際に活用されていることもあり、ご家族からの相談を持ちかけられることもある。</p>	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ざれることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>昨年起こったグループホームでの虐待致死事件を受けて県の連絡会で発表したこともあり、機会を設けて虐待のことを話し合うようにしている。</p>	<p>現在まで当事業所において虐待の事例がないこともあるが、どのようなことが虐待となるのか等、虐待についての知識をもう少し深く理解する機会を作る必要を感じている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動については適材適所への配置と、利用者へのダメージの軽減を両方の視点を持って考えている。また職員とも積極的に意見を交わす場を作り、離職に至らないように配慮を行っている。</p>	<p>離職があった際の、補充について現在調整中。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>運営者・ホーム長が認知症介護指導者養成研修修了生であることから、実践研修や管理者研修等への参加は積極的である。OJTについても有効に活用できている。</p>	<p>職場内研修の質を高める余地がある。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市内にあるグループホーム・グループハウスで連絡会を作っており、そこで行う勉強会や討論会等に参加することで、事業所内だけでなく、他事業所との連携やネットワークの形成に役立っている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>運営者が直接職員の意見を聞く場を設けている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は介護という分野での基準が目に見えないこと数字に現われないことを熟知しており、</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>最初に相談に来られるのは本人よりもご家族であることがほとんどだが、その後の見学や面接等、ご本人とお会いする場を設け、ご家族の思いもきちんと聞きながらもご本人の思いを聞く努力をしている。</p>	<p>グループホーム入居に対する不安や理由について、入居前の関わり方をもう少し工夫する必要があると思う。</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居申込みに至らなかったとしても、当事業所のできる範囲での支援を行っている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人とご家族にとって、その時点でグループホームの利用が必要かどうかを考えて判断するようにしている。</p>	<p>当事業所以外のサービスを把握することや、他事業所の連携をもっと深める必要があると感じている。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>何度か見学に来ていただくことで、当事業所の雰囲気や職員へのなじみを少しずつでも築いていただけるよう努めている。</p>	<p>費用や職員への負担等、考慮すべき点は多々あると思われるが、「お試し期間」の活用も考えている。</p>
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>介護する側・される側という一方通行な関係だけでなく、「お互いに1人の人間同士」という気持ちをしっかり持っているので、暮らしの中での様々な場面で、お互いに支えたり支えられたりする関係は自然にできている。例えば食事作りの場面は顕著である。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	<p>認知症を持つ人本人の理解と並んで、認知症を持つ方を支える家族の理解についても欠かさず学ぶようにしている。</p>	<p>「家族」の大切さは承知しているが、具体的にどのような協力ができるのか、どのような形が望ましいのかはさらに考える必要があると感じている。</p>
29	<p>利用者と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>ご本人・ご家族の両方の立場からの話を聞き、関係の理解に努めている。その上で、介入し得るところ、いけないところの見極めをしつつ、良好な関係を保てるよう、また関係改善が必要であればそれを意識した支援を心掛けている。</p>	<p>家族の関係については、直接聞きづらいことや、聞くことが望ましくないこともあると思われるため、何でも情報収集するというわけにはいかないが、話せる関係となれるように、家族との接し方を考えている。</p>
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>法事や墓参りへ行かれたり、家族と外出されることは多い。また入居前から参加されている会合への参加も希望に応じて参加していただけるよう支援している。</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係を知り、良い状態の時には入居者間でできている関係の中に職員が必要以上に介入しないように努めている。食事やお茶の際の席の配置には特に配慮するようにしている。</p>	
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>現時点で当ホームでのサービス利用を終了された方は逝去されたり、入院（常時医療行為が必要な状態）された等、事業所の機能の範囲外のサービスを要する方々なので、特に関係を切らずに続けているという事例はない。</p>	<p>今後、必要となる方がいらっしゃれば、そのつもりにはしている。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p>			
<p>1. 一人ひとりの把握</p>			
33	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式を活用し、本人の思い・希望等の把握に努めている。また、日々の記録も詳細にとることで、介護者側の都合ではなく、本人本位に見る視点を持つための資料としている。</p>	<p>センター方式の精度を高めるため、各職員の習熟度に合わせて研修等、学ぶ機会を作っている</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式を活用し、把握に努めている。</p>	<p>一つ間違うと「情報を集めること」が目的となってしまうかねないので、「何のための情報収集か」という意識づけを欠かさないように働きかけることが必要だと思う。</p>
35	<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>問題のある部分・課題となっている部分だけに集中するのではなく、1日の流れの中で記録を取り、総合的な把握となるよう努めている。</p>	
<p>2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成担当者を中心として職員全員で話をして介護計画を作成している。話し合う場に直接利用者や家族が入ったことはあまりないが、作成したものの確認を取るなどして、それぞれの意見が反映できるようにしている。</p>	<p>家族の中でも関わりの少ない家族や、言語でのコミュニケーションの難しい利用者との関わり方など、考えなくてはならないことがある。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>設定した期間に応じた見直しだけでなく、状況・状態に応じた見直しをしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>引継ぎノートや連絡帳・パソコンへ日々の暮らしの様子や状況を記録しているが、記録の内容が決まったものになってきている。</p>	<p>行ったケアや体調の変化といったことには詳細な記録ができていますが、1人の人を知るためには、もっと暮らしの様子（発した言葉や表情）についても記録する必要があることを全員が共有できなければならない。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>認知症対応型共同生活介護だけでなく、共用型の認知症対応型通所介護も行っている。</p>	<p>人員配置等の関係により現在は休止としているが、整い次第再開したいと考えている。</p>
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>地域資源との協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>地域の行事やホーム・家族会の行事の開催に民生委員やボランティア等に協力をいただいている。</p>	<p>近くの老人センターにてキャラバンメイトの活動を行い深い関係ができたこともあり、今後、より地域にある資源とのつながりが期待できる。しかし、活用できる地域資源の把握をもう少しきちんとする必要がある。</p>
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>グループホームを中心としての支援となっている。</p>	<p>グループホームにおいて、介護保険外サービスをどのように活用できるのか考える必要がある。</p>
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>現在のところ、地域包括支援センターとの関わりは、運営推進会議やキャラバンメイトの活動に際しての関わりが主となっており、直接利用者についてのことでの関わりは持っていない。</p>	<p>今後、必要性があれば考えなければならないと思っているが、どのように関わっていくことができるのかなど、勉強しなければならないことも多い。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>事業所で設定している協力医療機関とは異なる医療機関を希望されるときは、家族にも協力いただきながらそちらで受診していただくように支援している。協力医療機関への受診は入居契約時に家族に尋ねている。また入居後でも希望があれば応じている。</p>	<p>協力医療機関以外の医療機関を希望される方について、その医療機関と事業との連携や、実際の受診方法等について、取り決めておかなければならないことがある。</p>
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>現在、常時の受診はしていないが、必要時には受診できる事業所付近の医療機関を確保している。</p>	<p>サポート医師等も含めて、認知症に対しての理解のある医師（医療機関）を探している。</p>
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>非常勤職員に看護師を配置している。</p>	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時には医療機関への情報提供は欠かさず行っている。早期退院への相談等については、家族との関係も考慮しながらお見舞いに行った際に情報交換や相談を行うようにしている。</p>	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居契約時に重度化に関する指針を文章にて提示し、事業所としてできることの説明等、話し合いを行っている。</p>	<p>明確な項目や基準の設定が難しい部分もあるので、事業所として可能な支援の限界や利用者・家族の思い等を話し合いをする中で先を決めるようにしている。</p>
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>現在の入居している利用者の状態や、過去退居となった利用者の状態等を見直し、事業所のできること・できないことと照らし合わせ、あらゆる状況を考えるようにしている。</p>	<p>事業所としての機能を超えて、職員の思いが強いため、事業所としての明確な方針を早期に打ち出したい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいない項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	センター方式やホームでの記録を中心として情報交換に努めている。		移り変わる先に任せてしまっていることもあるのではないかと思う。移り変わり先がどのような情報を求めているのが等、その時だけではない情報交換が必要だと感じている。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	介護に携わる人間として心掛けておかなければならない基本的な態度を持つことは当然のこととして、介護者・要介護者という関係だけでなく、「1人の人対1人の人」というあたりまえの関係を忘れないようにすることを常に意識している。常に敬語を使うだけでなく、その時のその方の状況に応じた言葉を用いている。		常勤・非常勤問わず書き込める連絡帳という記録様式があるが、その保管についても少し全員のプライバシーへの配慮の意識を高めた。
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者自身に決めてもらうためにこちらからの言葉の使い方には特に注意している（尋ねているようで実は決めつけてしまうような言葉かけにならないように）。丁寧に話すだけでなく本人が最も分かりやすい単語や話し方を用いて、自己決定を促せるよう努めている。		全ての場面において利用者の自己決定を尊重しているかどうかの見直し、また自己決定と称してケアの手を抜くことのないよう、職員への意識づけをしたい。
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの時間の使い方やペースが異なることを十分に理解し、またそれぞれのペースを知ること、業務優先・職員優先の暮らしにならないように注意している。しかし、人員配置等、暮らしを支える上で大きな影響を与える要素に十分でない箇所も見られる。		人（人数）がいないと良いケアができないというわけではないが、現在の人員でできることを考える工夫と、人員配置を整えるの必要性を感じており、現在調整中である。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	服装や髪型・化粧など「おしゃれ」に気が向くように支援している（髪を結うなど）。理美容については約2ヶ月に1回の訪問美容が利用できる他、行きつけ等希望の店がある方はそちらへ行くよう支援している。		女性については自ら意識される方が多いが、関心が薄れている方、また男性利用者に関しての働きかけ方を考えなければならない。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持よい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		<p>本人の希望と、安全への配慮のバランスを考慮する必要がある。</p>
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		


項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的にはお小遣いは事業所で管理することとしているが、自分で管理することを望まれ、十分な力量がある方については家族とも相談したうえで、本人に管理してもらっている方もいる。</p>	
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>利用者側から希望が出た際には、希望に応じるようにしている。希望が出にくい、拒否がある場合でも、無理はしないが、極力事業所内だけで暮らしが完結してしまわないように、出かける場面・状況づくりを考えている。</p>	
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	<p>一泊旅行を実施したことがある。現在のところ計画段階ではあるが、生家への帰郷や旅行などの実施を考えている。</p>	<p>本人の希望と、ホームで対応可能な限度とのバランスを取る必要があると思われる。</p>
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>事務所の電話を使っていただいたり、子機を自室に持ち込んで電話される方もいらっしゃる。</p>	
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>	<p>面会時間の設定は特にしておらず、またチャイムやモニター等を活用し、来訪者に対しては必ず職員が出迎えるようにしている。</p>	
(4) 安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束は皆無である。</p>	<p>「具体的な行為」についての周知徹底については十分ではないため、今後、会議の場や勉強会を開催するなどして周知徹底に努めたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>過去に生じた事故などを見直して、個人の危機意識を高める必要がある。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		<p>消防署の行っている救急救命の講座などを順次、受講する予定である。</p>
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>特に地震や水害を想定した備え等を整える必要があり、現在勉強中である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>介護計画について家族と話をする際や、暮らしの様子を話す際に話し合うことがあるが、必要以上に家族の負担を増すことのないように話す内容や順番については配慮している。</p>	
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>異変時に気づくために、普段からの様子観察を怠ることのないようにしている。変化に気づいた時にはバイタルサインのチェックを行い、看護師や医療機関への相談・受診等速やかに行うようにしている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>服薬の確認シートを活用して、薬の名前・効用・副作用・処方の変更等、全職員が把握・確認できるようにしている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>医療機関から処方されている薬を飲むこともあるが、牛乳やヨーグルトはじめ、便通がよくなる食べ物・飲み物をおやつや水分補給時に取り入れるようにしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>歯磨きは本人任せにしているところが多いが、自力で行うことが難しい方には、声かけや誘導したり、代わりに磨くなどしている。毎食後の歯磨きを心掛けてはいるが、徹底できているとは言い難い。</p>	<p>口腔内を清潔にする意義等、口腔ケアについて勉強しなければならない。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量のチェックや毎食時・10時・15時・入浴後の水分補給の確認、随時勤める等して水分量・食事量ともに確保できるようにしている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	<p>感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等）</p>	<p>感染症対策マニュアルを作成し配布している。</p>	
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>	<p>調理器具の熱湯消毒や薬品を使って消毒を徹底している。食材に関しては極力無駄な買い物がないように毎日買い物に行っている。</p>	<p>まな板の使用方法（肉用と野菜用等）を改善する必要がある。</p>
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1) 居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>	<p>植木や植物を置いたり、表札を掲げる等している。</p>	<p>元々が社員寮のため、通常にはない細長い形をしているので、より一層の工夫が必要だと考えている。</p>
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>暮らしの場として不自然でないような</p>	
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング・応接室・和室・客間等の共有空間がある中、2階の和室はふすまで仕切れば共有空間の中にながら、一人になれたり思い思いに過ごすことができる。しかし1階についてはリビングが主な場所となってしまうため、他者から距離をおこうと思えば自室しかない。</p>	<p>1階の空間の活用方法について考え中である。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>リノベーションダメージの軽減や落ち着くことのできる環境作りのために、居室は照明と空調設備のみの既設としており、その他の物は自宅で使っていたものや使い慣れたものを持ってきていただくようにしている。</p>	<p>なじみの環境作りを狙って使い慣れた物を持ってきていただくことにしているが、逆に不穩につながることもあり、どのような工夫をすれば居心地良いと感じてもらえるのか考える必要がある。</p>
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>カーテンや冷暖房、温度計等を使って温度調節やまぶしさへの配慮を行っている。</p>	<p>各居室の温度調節についてはよりこまやかな配慮が必要かと思う。温度計・湿度計の設置等。</p>
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>暮らしの場としての雰囲気や損なわないように、またできるだけ自らの使い安全に動けるような空間作りに努めている。過度の設備（エレベーターや特殊浴槽）はしておらず、しかし必要箇所（浴室・廊下）への手すり設置や昇降しやすい階段（段差は低く、幅は広く）の設置といった工夫を行っている。</p>	<p>現在よりも身体機能が重度化したときに、今のままの設備では難しいことも出てくると思うが、そのときの対応等を考えなければならないと思う。</p>
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>事業所内が同じような扉が続くため、分かりやすいように名前のシールを貼ったり、人形を飾ったりして目印としている。また夜間はトイレと分かりやすいように電気をつけたままにするなどの工夫をしている。</p>	<p>環境作りに関しては、全ての面について改善の余地があると思う。</p>
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>玄関先やベランダで花や野菜を育てており、水遣りや収穫は暮らしの中での楽しみや、役割の一つとなっている。1階ベランダには椅子を置き、天気の良い日には日光浴を行い気分転換を図れるようにしている。</p>	<p>2階のベランダを空間的に広くとってあるので、良い活用方法を検討したい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き生きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)